

interview ————— 一緒に成長していきたい、ただそれだけ。

障がいを持ったり、発達に特性のある子どもが利用できる放課後サービス「おひさま」や、障がいを持つ人の生活を支援するグループホーム「サンライズ大君」などを運営する株式会社太陽。今回は、とても明るく話をしてくれる太陽で働く皆さんの、さまざまな思いについてのお話。

10年間で感じた変化と続けてきた理由

大柿町大原にある「おひさま2号館」。色とりどりの絵が描かれた施設は、雰囲気がとても明るい。「ここは、ハンディキャップがある子どもたちが通う放課後児童クラブのようなもので、成長段階で気になることがある子どもたちや、その中で不登校気味な子どもたちも通っています」と分かりやすく説明してくれるのは、宮下由佳代表と綾華さんだ。「おひさまが家庭や学校とは違った第三の居場所となって、子どもたちが自分らしく成長できる場所となるように支援をしていきます。まずは気軽に相談できる場所として、月3回おひさまカフェも開いているので、ぜひご利用ください」

活動は、昨年10周年を迎えた。元々、広島市の障がい者支援施設に勤めていた由佳さんが、同様の施設が島にもあればと思ったのが始まりだった。「当時はまだ、障がいという言葉に対して閉鎖的な空気は少なからずあったと思います。ですが、この10年で障がいを持つ子どもたちを取り巻く環境や、障がいそのものの見方がずいぶんと良い方向に変わった気がします」立ち上がり初期からスタッフとして働く沼田さんは「私たちも子どもたちと一緒に成長させてもらっているんですね。子どもたちの成長の過程の一部になれることが嬉しいし、反応や言葉、卒業した子どもたちの自立した姿を見るたびに、続けてきてよかったと思います」と話し、皆さんが笑顔でうなずいたのがとても印象的だった。



株式会社太陽

(左から)沼田惇史さん・宮下綾華さん
宮下由佳さん・三木亮太さん

「他人事は自分事」を考える

各施設の活動内容は、自分たちと何ら変わらない生活を送ることができるような手伝いを行っているだけ、と皆さんは口をそろえて言う。「障がいやハンディキャップを口にする【私は違う】と他人事になってしまう。でも、他人事じゃなくて自分事！私たちだって、いつ何が起きてどうなるか分からないからこそ、施設にいるから特別なのではないということも、少しでも理解してもらえたらと思います。もちろん、外からだが見えない部分や不安な要素もあると思うので、今後は、私たちの活動をよりオープンに、どんな人がいてどんなことをしているのかを、さまざまな方法で発信したいと思っています」

おひさまには、元教職員のスタッフも在籍中。学習面のサポートも積極的に行っている。「距離ができてしまうので、おひさまではスタッフのことを先生とは呼ばせません。スタッフとの関係も対等に、気楽に過ごしてほしいので、これからの10年も、子どもや大人関係なく、皆さんがありのままの自分を受け入れて、楽しく生きていくサポートをしていきたいですね」と綾華さんは明るく笑った。

自分には関係ないという人も多くいるだろう。しかし、太陽が運営する各施設は、ただの障がい者支援施設ではなく、障がいを受け入れ『個性』として人へ働きかけるきっかけの場所、人と何かをすることが楽しいと思えるような場所であるのではないかと思った。皆さんの話を聞き、私自身、障がいとの向き合い方を改めて考えさせられたのは言うまでもない。



おひさま2号館には、子どもたちが自由な発想で描いた繊細で色鮮やかな絵も。

現在、夏にオープン予定の日中支援型グループホーム「サンライズ柿浦」では入居者・スタッフともに募集中！おひさまの活動を経て、日中の就労先や行き先が無い方でも入居できるグループホームの必要性を感じ、ようやくオープンすることになりました。この施設で一緒に働きますか？詳しくはスタッフまでお問い合わせください。 お問い合わせ先：090-6431-7662

ETAJIMA
GoON!
(ゴー・オン)

市内で活躍する人やお店をリレー形式で毎月紹介。掲載された人が次の取材先を紹介する、“つなぐ・つながる”をテーマにした企画です。A3判(フルカラー)を電子版で見ることが出来ます。



各種設備は
こちらから

